Rokko Catholic Church Bulletin

カトリック六甲教会 教会報

2007 10

No.430

１０月の予定

		教会暦	教会行事
1	月	聖ﾃﾚｼﾞｱ(幼いｲｴｽの)おとめ教会博士	11:00 ベビーとママの集い
2	火	守護の天使	
4	木	聖ﾌﾗﾝｼｽｺ(ｱｼｼﾞ)修道者	
5	金		初金 7:00 10:00 ミサ
6	土		9:30 教会大掃除
7	日	年間第27主日	
14	日	年間第28主日	10:15 小教区評議会
			17:00 集会祭儀(海星病院)
15	月	聖ﾃﾚｼﾞｱ(ｲｴｽの)おとめ教会博士	14:00 三日月会ミサと例会 18:30 講演会
17	水	聖ｲｸﾞﾅﾁｵ(ｱﾝﾁｵｹ)司教殉教者	
18	木	聖ﾙｶ福音記者	
20	土		14:30 教会学校ホールミサ
21	日	年間第29主日 世界宣教の日	
27	土		17:00 19:00 主日ミサ(バザー準備のため)
28	日	年間第30主日	10:30 チャリティーバザー(11時のミサはありません) 17:00 集会祭儀(海星病院)
29	月		11:00 ベビーとママの集い

神様 ありがとう！

天高く馬肥ゆる秋、灯火親しむ候を迎えました。日々読書にいそしんでいる方、鰯雲を見上げては故人を偲んでいる方、名月に一献傾け人生を振り返っている方もおられることでしょう。♪ 秋を愛する人は 心深き人・・♪ 秋は信仰を深める時だと思います。子供たちにとっては、夏の日の思い出や体験が生きてくる時ではないでしょうか。

この夏、教会学校の小学生６１名とリーダー・食事班の総勢８８名は平和をテーマに姫路仁豊野で３泊４日、“ みんなでキャンプ みんなのキャンプ ”を楽しみました。テーマ曲“ 地球家族 ”が体に染みつくほど、何度も何度も大きな声で歌いました。♪ こころ開き分かち合えば 広い空が微笑んでる ・・♪ 神様の愛感じられる ・・ ぼくらは家族 地球家族 ひとり一人 愛されている ♪ 猛暑の中、熱中症や水難もなく終えられたことは神に感謝です。

中高生会のキャンプは学生・リーダー総勢３０名が奈良県宇陀市の山中で３泊４日、感謝をテーマに大自然の中で生活し

ました。ドイツ人宣教師が建てた、生きることを学ぶ学校と名付けられた山小屋でした。発電機を動かし小川の水を蒸留し、テレビも電話もない場所で共に生きていることの有り難さを少しは感じ取ってくれたようです。友だちになってくれてありがとう、きれいな水や流しソーメンありがとう、トンボさん指に止まってくれてありがとう・・。都会っ子にとって、自然の中で人とつながり神様とつながって生きる感覚を味わうチャンスだったと思います。私は子供の素直な心とリーダーの奉仕の精神に多くを学び、“老いては子に従え”という想いを感じました（まだ早い？）。

しかし、いつの日か人間社会は彼等の責任下に置かれるのです。そして、将来の教会とその使命を担ってくれるのも彼等なのです。或る青年のリーダーは、今ここに共に生きていること自体、決して当たり前のことではなく、有り難いこと（容易なことではない）ですねと言って、信仰の根本を伝えてくれました。実際、一人一人のいのちは当然有ったものではなく、いわば偶然のようにいただいたものです。私のいのちは、自分で工夫し計画して造ったものではありません。いつ頃どの国に生まれて来ようとか、裕福な両親のもとに生まれて来ようとか・・、自分の望みで操作出来たものでもありません。全く私の両親の愛によるものであり、手塩にかけて育ててもらった命です。この両親があり、この祖父母があり、この曾祖父母があり・・と連綿と続く出会いの果てに、私は有る。不思議ですね。もし長い長い歴史の中で、たった二人の出会いが食い違っていたら、私は無かったのです。本当にかけがえのない命です。全てをつかさどる神様の大きな愛、その計らいは神秘であり、人間のちっぽけな智恵をはるかに超えているのです。私たちに出来るのは、神様に感謝と賛美を捧げることであり、いただいた命を神様が喜ばれるように燃焼させることではないでしょうか。

キャンプの間に、小学生と中学生の娘を残して若い父親が出張先の外地で病死されました。この知らせは魂が砕かれる程の哀しい現実ではありますが、私たちは無念の死を捧げられた方のご冥福を祈り、二人の娘たちが母親と協力して強く生きてくれるようにと切に願いました。この父親は天国から必ずやご家族を守って下さると信じています。「私たちの中には、誰一人自分のために生きる人はなく、誰一人自分のために死ぬ人もいません。生きるにしても、死ぬにしても、私たちは主のものです」（ローマ１４章）。

桜井神父

各 部 会 だ よ り

婦人会

天高く馬肥ゆる秋、食欲の秋、読書の秋。凌ぎやすい季節となり、ホットされて居られる事と思います。季節の変わり目ですので、くれぐれもお体ご自愛下さいませ。

● ９／７(金)の例会には約 50 名強の参加者がありました。Sr.松本のインドでの体験を通してインド文化を垣間見ることができました。『インドはエキサイティングな国で在り、東京が死んだ街に思えた。』とおっしゃった言葉が印象的でした。

次回例会は 12 月です。今回参加できなかった方々の参加を願っております。

● 10／15(月)『中村哲講演会』があります。なかなかの好人物です。こんな機会はめったにありません。是非、ご来場いただき、彼の発する言葉に耳を傾けてみませんか。多くの方のご来場をお待ちしております。

● 10／28(日) 待ちに待ったチャリティーバザーがあります。テーマは『心から だれかのために』です。蚤の市への寄付、婦人会のお手伝い､バザー品購入など､心からだれかのために、ボランティア　宜しくお願いいたします。
● 11/9(金) 婦人会の一日黙想会を行います。参加の募集を 10/14(日)～10/28(日)まで行います｡詳しくは今後出されるチラシをご覧下さい。皆様のご参加をお待ちしております。

【予定】
10／5(金)　初金　ミサ　10：00
6(土)　教会大掃除　9：30～
14(日) ～　28 (日)　婦人会黙想会参加者募集期間
15(月)『中村哲講演会』　18：30～
28(日)　チャリティーバザー

【聖堂当番】
10／7(日)　ミサ後　5 班
14(日)　ミサ後　青年会・中高生会
19(金)　西２，３，４
26(金)　10:00　有志　　ご協力下さい

三日月会
10／15(月)　例会　14:00～　ミサ
内容については､三日月会総会報告をご覧ください。

青年会
10／14（日）　定例会
12：30～第５会議室
内容：聖書を読んで分かち合い等
※初めての方もお気軽にご参加下さい。

10／28（日）はチャリティーバザーのため定例会はありません。

教会学校
10 月６日(土)　通常クラス
10 月 13 日(土)　バザー準備
10 月 20 日(土)　ホールミサ
10 月 27 日(土)　お休み（バザー前日）
チャリティバザーで、教会学校からは親子の手作り作品のお店とリーダーのお店を出店します。お楽しみに！

典礼部
聖体奉仕者への「祭壇奉仕講習会」を実施いたしました。
・参加者　８月 19 日(日)　13 名
８月 26 日(日)　12 名
・内　容　祭壇奉仕の所作と香部屋での祭具の準備・片付け
①９時と 11 時ミサの祭具の準備は侍者会がおこないますが、聖体奉仕者の方に最終点検をお願いいたします。
②侍者会の典礼当番表を「当番表入れ」に入れることになりました。
③聖体奉仕者の方が、実際の祭壇奉仕を希望される場合は、典礼部コーディネーターまでご連絡下さい。

社会活動部
11／２(金)　13:30～　社会活動部連絡会
♪今年度の活動等について！
♪各ボランティアグループの責任者の方はご参加お願いします。

【 チャリティーバザー「蚤の市」 寄付のお願い 】

みなさまに 10／28（日）チャリティーバザー「蚤の市」への寄付をお願い致します。
９/16(日)～10/21(日)､聖堂入り口へ品物を入れるダンボール箱を置きますので､ご協力お願いします。
品物は新品同様のもの、賞味期限切れしていないもの、 売れ筋な（皆さんがほしいと思われるもの）物をお願いします。ご協力よろしくお願いします。　（婦人会）

＜お　知　ら　せ＞

【社会活動部より】

10／３(水)　10：00～　手芸の集い（第１・２会議室）

♪参加自由。お気軽にご参加下さい。

♪原則として第１水曜日

10／13(土)　10：00～　炊き出し（イグナチオお台所）

♪小野浜グランドにて配食や、おじさん達とのお話し相手だけでもＯＫです。

♪毎月第２土曜日

10／21(日)　9:00 ミサ後　手作りコーナー（イグナチオホール）

♪第３日曜日９時ミサ後

♪お弁当・食品。小物販売

10／26(金)　14：00～　おにぎり作り（イグナチオお台所）

♪須磨方面夜回り支援

【養成部より】

１、旧約の勉強会

イザヤ、エレミヤ、エゼキエルと三大預言者の勉強を続けて来ましたが、今年はアモスの預言を学びます。アモスは北イスラエルのヤロブアムの治世の末期に、突然王国の聖所や、サマリアの都に現れて、王国の滅亡を預言した預言者です。彼はテコアの牧者の一人で、家畜を飼い、いちじく桑を栽培する者でした。彼の活動期間は短く、預言の数もそう多くはありませんが言葉は簡潔で厳しいものです。彼が神の言葉を語りかけたのは北イスラエル王国の最後の繁栄の時代で、支配階層はしばしの繁栄に酔い、貧しい人々を苦しめていました。アモスはこの支配者達の横暴を批判して、王国の滅亡を預言したのです。今の日本社会も弱者と強者の格差の広がりが著しくなる時、アモスの言葉に耳を傾けてみて下さい。

講　　師：　雨宮　慧　神父（上智大学教授）
テキスト：　アモス書
日　　時：　２００７年１０月２０日（土）　及び　２１日（日）
　　両日共　午後１時３０分より
場　　所：　六甲教会大聖堂

２、哲学講座

講　　師：　奥村　和滋　先生　（聖トーマス大学教授）
日　　時：　２００７年１０月２７日（土）　午前１０時３０分
場　　所：　六甲学院生徒研修所

聖体奉仕の講習会で

旧聞になりますが、今年の 7 月に神戸中央教会でシリロ神父様から「ご聖体に関する注意」の話がありました。ユーモアにあふれる神父様のお話でしたが、内容はぜひ皆様にもお伝えしたい事柄でしたので教会報でご報告させていただきます。

1) 高齢者社会になり、自宅や病院にご聖体をお運びする必要が増えてきました。ご聖体は病人にとっての効き目のある薬ではありませんし、久しぶりに訪問するときのお土産品でもありません。しかし、ご聖体を教会に来られない人のためにお運びすることは信者誰にとっても大切な勤めです。でも、ご聖体の扱いは司祭の許可のもと丁寧に扱って欲しい。ご聖体は必ずピクシスに入れて運び、教会で受け取られたら出来るだけ早く拝領する方の許に届けるように。「途中でお茶を飲んで一服してからとか、明日ついでのときに届けましょうではないように。」とのことです。
(六甲教会では、十分にピクシスも用意されていますし、家庭での拝領についてのプリントも用意されています。必要な方は司祭に申し出てください。)

2) 私たちは、ミサで聖体拝領の前に「キリストの体」と言ってご聖体をいただきます。これは一人ひとりの信仰告白を促しています。「キリストの体」と提示されたときに「アーメン」と応答する事は、「私はキリストの体であると信じます」と宣言することです。時々はっきりと「アーメン」と答えない人がいます。あなたは「本当に信じているのですか？」と聞きたくなります。もし洗礼を受けていても、信じていないなら聖体拝領は遠慮していただきたい、と指摘されました。

身近なご聖体に対する心構えと信仰の基礎に関するお話でした。病人訪問などこれから増える機会に伺ってよかったと思いました。 (藤原)

～三日月会総会報告～

池長大司教「典礼と聖歌」講話要録

9月 17 日当日は残暑厳しい午後でしたが、壮年会、婦人会、三日月会以外に他教会からも聴講に来られて 110 名を超す参加者を迎え、開会しました。大司教は事前準備の資料に副って、１時間に及ぶ講話をされました。その要旨を報告致します。

１）カトリック教会は第二バチカン公会議を機に、ミサの中で歌われるラテン語のキリエ、グロリア、クレド、サンクツス、アニュスデイに代えて、各々の所在国の言葉を使って、ミサを捧げる事となった。

２）ラテン語によるミサで神を賛美する心を、また、感謝する心を更に深められる様にしようとして、ラテン語が持つ発音のアクセントと意味に、曲想を一定の法則に沿ってつけたグレゴリオ聖歌が誕生した。

３）このグレゴリオ聖歌が日本にもたらされたのは、1549 年に日本宣教の為に来日された聖フランシスコ・ザビエルによる。当時欧州は、ルネッサンス最盛期にあり、今日に残るローマ大聖堂がミケランジェロを中心として築造されており、また、絵画だけでなく音楽界においても、巨匠が輩出され、文化興隆期であった。聖ザビエルは、これら西洋文化を伴って、当時の日本の支配者織田信長や諸大名に接し、布教と共に文化を伝えた。

４）これらの西洋文化は、日本で急速に吸収されて、1584 年にローマ教皇の下に派遣された天正遣欧少年使節のうち二人が、パイプオルガンで名演奏を行った事が記録に残っている。

５）天正遣欧少年使節が日本に帰国した時は、既に豊臣の時代に変わり、キリスト教迫害の時代に入っていて、教会音楽は途絶えてしまった。

６）明治時代に至って、カトリックに先駆けてプロテスタントが布教を開始し、賛美歌を広め始めた。プロテスタントでは牧師の説教が中心で、賛美歌を皆で一緒に声を合わせて歌い、信仰を育てようとしているが、カトリックでは古代ユダヤ教の過越祭の典礼に倣って、食卓を囲み、祈りの後に食べ物を分かち合う、ミサの原型に依って、キリストの死と復活と昇天を礼拝する賛美と感謝の歌を唄うのである。

７）カトリック聖歌集と典礼聖歌との違いは、前者は神を賛美する心を持って唄えばよいのであるが、後者は賛美する心に加えて、より一層賛美と感謝の心を深める為の、グレゴリオ聖歌におけるラテン語の代わりの日本語の祈り文のアクセントと意味を曲想にして、作られているので、正しい唄い方の指導を受ける事を勧めます。

三日月会の 10 月以降の例会で大司教の講話を更に理解を深める事を目的として、３～４回に亘って三浦優子さんにバロック以前の話、以後の洋楽の話、日本の教会における話を御願いしておりますので、三日月会以外の方々もご参加下さい。　（三日月会　馬場）

10月15日　命の水に懸ける男！中村哲　来る！！

パキスタン、アフガニスタンの山岳無医村地域に二十数年留まり、医療活動、井戸の掘削、灌漑用水路の建設に懸命に取り組んでいる男である。

医療活動を通して、病気の殆どが十分な水と食料があれば罹らない病気と悟り、十分な水確保の為に医療活動と平行して井戸の掘削に取り掛かる。掘った井戸の数 1500 本以上。「薬や手術で飢えや渇きを治す事はできない。医療以前の問題を何とかしなければならない。」という思いが彼をかきたてた。

この頃のペシャワール（パキスタン）には国境を接したアフガンで悲惨な内戦が繰り広がっており、多くの難民が押し寄せていた。難民キャンプでの医療活動を行う中でアフガンの国内診療所開設へと動き出す。

国際支援に疑問を抱く。腹の減った人にノートや鉛筆を送ったところで何になるのか。食料の援助が末端の人々にまで行き渡らない。援助に軍隊は要らない。アフガンの歴史、文化を学び、相手の立場に立って考える事が大切と説く。アフガンの現地の人々が何を望んでいるのか。現地の自立するための支援でないと意味がない。内戦、空爆、旱魃と悲しみと失墜のどん底で暮す人々を目の辺りにした。そこで暮す人の目線で「国際貢献とは何か」身をもって問い続ける。

村に戻った人々の願いは「自分の生まれ育った村で農業をしながら生活したい。」であった。旱魃によって砂漠化した（地球温暖化が原因）大地に水を取り戻し、人々の生活を取り戻す。水があれば野菜や穀物を栽培する事ができ、貧困から抜け出せ、病気からも救われることに繋がる。地元の医師、看護師を雇い、彼はアフガンの農民たちと灌漑用水路を建設する現場に立つ。工事現場で働く農民に日当を支払い、生活を支える。今年 4 月に 13 キロの水路（2003 年 7 月開始）が完成した。長年にわたる地道な活動が砂漠化した大地に緑をもたらした。工事はこれからも続く。工事に必要な機材も不足、土木の専門家でもなく、言葉も文化も違う過酷な状況でアフガンの人々と心を重ねていくのは容易なことではない。「自分の置かれた場所で一生懸命考え行動する事が大切」と彼は言う。「自分でこうしようと思って歩んだ人生ではなく、次々に目の前に現れた事態に何をすべきかを考えながら一歩一歩進んだだけ」と。アフガンの農民が命の輝きを取り戻すまで彼はアフガンの地に立ち続けだろう。

中村哲は私たちにどんなメッセージを与えるのであろうか。彼の心の中の揺れる思いに、耳を傾けたい。講演が楽しみである。

講演会：10 月 15 日（月）　18：30 開始。

大勢の方々のご来場をお待ちしております。　（婦人会：山本）

みんなでキャンプ　みんなのキャンプ♪

8月9日～12日、淳心の家（姫路）にて総勢88人でキャンプをしました。4日間、天候もプログラムも子供たちの笑顔も歌声も、ぜーんぶ神様に大感謝です！！！！

土井(１年)

キャンプにいきました。それで いちばんおもしろかったことは せかいちずをつくったから。それでキャンプファイヤーでおしりをふりながらおどったから　キモだめしはいかなかったけどおもしろかったよ。むしを 50 っぴきぐらいつかまえたよ。それでバったを 5 ひきぐらいつかまえたよ　それでいちばんでかいバッタもつかまえたよ。それでごはんのときさらだをたべすぎたよ。とってもおいしかったよ。それでそとでミサをしたよ。かわにいっておもしろかったよ　しかもプールにもはいったよ　とんぼもつかまえたよ。くもはつかまえなかったよ。それでねたときずっとねれなかったよ。それでプールがふかかったよ。さいしょバスにのっていったよ。

「キャンプのかんそう」　寺村(２年)

八月九日キャンプに行きました。一日目の夕ごはんはいえでつくってもらうのと おおちがいでした。それにたくさんのお友だちができました。一ばん仲よくなったお友だちはナルミちゃんです。　ウノリンピックもおもしろかったです。しっぽとりでまけてしまったけど思ったより多くとれてよかったです。

二日目Ｔシャツづくりでこんなのがあったらいいな。と前から思ってたＴシャツをつくりました。いがいとじかんがかかったけどたのしかったです。

キャンプでは色々なことが学べたと思います。なにをよくまなんだかというとチームワークできょう力するということをよく学んだとおもいました。

「たのしかったキャンプ」　加藤(３年)

わたしが、いちばんキャンプでたのしかったことは、ぜんぶたのしかったけど８月９日のよるにはじめて、おばけやしきをじゅんしんの家で前リーダーとわたしとさほちゃんと、まどかちゃんとおばけやしきにいくことになりました。さいしょに、もとしたリーダーがこわい「へいたい」の話しをしたのでとてもこわかったです。でもおばけやしきにいったとき、さいしょはこわくなかったのがよかったけれど 白いおめんのおばけはとってもとってもこわかったです。そしてかみがおいてあってだいひょうで、えみまどかちゃんがなまえをかいてくれました。そして、かえろうとすると、おめんのおばけがおそってくるのがこわくてたまりませんでした。そしてでるときでれなかったので、でるときわたしは、はんなきのまま、もっていたかいちゅうでんとうをふりまわしました。そしたら白のおめんのおばけがこえをだしたので「あゆむリーダーだ。」といってそとにだしてくれました。

「キャンプ」　福田(３年)

わたしがキャンプでたのしかったところは、ぜんぶです。いっしょのへやであそんだり、そとでエビカニたいそうをやったりしてたのしいし、きらいな食べものも、すこしずつ食べれるようになりました。おふろもきもちよかったです。一番うれしかったときはともだちができたことです。ふつうの教会学校のときも、ともだちがいたけど、教会のキャンプでは、はじめてです。それがとっても、うれしかったです。キャンプファイヤーのときは、２はんのはっぴょうをできてすっきりしました。朝おきると、とてもねむたいし、しんどいけど友だちがいると元気がでます。ほとんどざぶとんをつかっています。おばけやしきのところではんぶんまでは、いけたけどとってもこわかったのでないてし

まいました。一番おもいでにのこっているのはぜんぶです。とってもたのしいへいわのあるキャンプでした。

全員で、元気に
記念撮影！！

キャンプ報告（今回のキャンプをふりかえって…）

吉村（キャンプチーフ）

今回のキャンプではたくさんの喜びがありました。「みんなでキャンプ　みんなのキャンプ」というテーマ通りの温かみあるキャンプであったように思います。テーマソングであった「地球家族」も、準備会で歌った時と、キャンプの最後にイグナチオホールで歌った時とでは、声の大きさも勿論ですが、その歌の中にある気持ち良い、優しい部分がそのまま歌声になっていたような、それぐらい心に残るものでした。

キャンプファイヤーが終わる時に近くにいた二年生の子が言いました。「今まで何となく平和って分かったつもりでいたけど、何だか少し分からなくなってきた。」　この言葉を聞いた時、この子はとても正直だなぁと思いました。さらに言えば、嬉しく思いました。このキャンプの目的の大きな部分は平和について考えることでした。平和が分からなくなったのであれば失敗であるのか。そうは思いません。平和を感じることと、それを頭で理解すること、言葉でそれ（平和）を表現することは同じ段階ではないと思います。キャンプに参加した子ども達は平和的に生きることを実践することが出来たのです。平和や正義といった普遍的価値を有するものは、考えれば考える程、その中にある多様性を知らされます。何となく分かるより、考え続けることが大切です。難しいからこそ大切な価値がある。これからも子ども達と平和について考え、実践をしていきたいと思います。

（※教会学校発行のジーザスキッズに更に詳しい報告を載せています。どうぞご覧下さい。）

みんなの広場

海星病院で主日の集会祭儀を司式して

ご存知のように昨年４月から、海星病院で主日の集会祭儀が始まりました。海星病院にご入院の未信者さんが時々来られますが、特養うみのほしにお住まいの信者さんがご聖体を受けられることが、最大の目的だと思いました。昨年末、病院は新しくなり、うみのほしとの連絡通路が断たれました。祭儀の目的は明らかに変わりました。うみのほしにお住まいの方、海星病院にご入院の方、外来を訪れる方、そのご家族、スタッフの方のための祈りとなりました、それが祭儀の本当の姿かもしれません。

私は海星病院で司式する時に３つのことを心がけています。第一に上記の意向を伝えること、第二

に聖体拝領の列に未信者さんを招き共に神様の祝福を願うこと、第三は祭儀が終ってからお一人お一人に声かけすることです。それは来てよかったと感じていただきたいからです。

先日集会祭儀が終ってからパジャマ姿の１人の未信者さんが「３日後に手術を受けます。スタッフの方に祭儀に参加してみたらと言われたので来てみました」と言われました。私はこのとき、集会祭儀を司式させていただいてよかったと思いました。間違いなく不安を抱えて来られた方に、安心、平安、勇気、励ましとなれたなら、それこそが神に捧げる病院での集会祭儀であると思いました。目の前におられる方だけではなく、この病院にかかわっておられる方々、また病に苦しんでおられる方のために、この聖堂での小さな集いを神様が祝福し受け入れてくださると思います。そのために仕える者として、取り成す者として私たち司式者を神様がつかってくださいましたら幸いです。

（大倉）

📖 図書紹介

今月は女性に関する本を２冊ご紹介いたします。

１、『女性学のエチカ　心が心に語る』　　川中なほ子／伊藤春樹　共著　南窓社

著者川中なほ子氏は、オックスフォード大学で宗教哲学を研究の後、日本の大学で教鞭をとりながら、若者たちに人間のあるべき姿を、キリスト教的観点から教えてこられた。この本は、著者が今まで生きてこられた種々の出来事から、何を思い、何を見出されたかを、また、長い歴史の中で女性にとっては、無理な望みとされてきたものを確立していくことの、神との関わりを語っている。

共著者伊藤春樹氏は、イタリアで精神学を研究され、社会福祉、生命理論について、若者に教えておられる。この本の中で、著者は特に、他者の存在を認識するという重大な点を、新しい価値観をもって社会の中で生かしていくことについて語っている。

読み始められる時、少々難しいと思われるかもしれないが、ゆっくりと読み通されると、非常に大切なものを明晰に、また筋道をつけて、説明してもらったと言えると私は思う。関心をもたれる方のために、簡単に目次を記しておく。

１、愛の住まい　２、些細なる聖性の偉大さ　－　家政　３、夫は他者
４、性の聖と俗　５、無償でない母性愛（以上、川中氏）
６、歴史につらなる老いた親　－　後悔　１、性と性別の彼岸　２、介護　－　助け、助けられる事（以上、伊藤氏）　３、フェミニスムを超えて　４、女性と文化、女性と自然　５、女性と環境　－　環境のキリスト教的理解　６、女性と人権　７、自由とその限界について　８、共同体論（以上、川中氏）

女性の立場について、真面目に考えたい方に、一読をぜひお勧めしたい。

２、『カビリアの女たち』　　ファドマ・アムルシュ著　中島和子訳　水声社

北アフリカのアルジェリアのイスラム家族の一員として生まれた著者が、非常に無残な環境に生まれながら、自分の生きている日々を、美しい言葉を通して、淡々と語っている。私にとって、これほど心を揺すぶられ、感動し、神に創られた人間の姿が浮かび上がってきた本は、最近あまりなかった。だから、ぜひ読んでいただきたい、特に女性の方に・・・そうしてアフリカのみでなく、アジアにもあることだと、アジアの歴史を思い出していただきたい。なお、最後の詩篇は私たちの祈りになるものである。私は繰り返しこの詩篇を音読して、聖母マリアの心を思い、私たちの知っている限りの歴史が語る小さい人々の生活を思った。良い本だと思う。　（三輪）

主 任 司 祭 の 地 平 線

読書の秋を迎えました。教会の図書室には係りの方々のお世話により益々充実し、聖書と信仰の書、哲学・神学、キリスト教的な文学・詩歌・古典・CD など、また子供向きの本も揃っています。若い時から良書を読む習慣を身につけることは、国語力や表現力を養うだけでなく、物事を深く考えたり良い判断ができる人間に成長してゆくでしょう。しかも、テレビを観たり携帯メールを操作するより１０倍も脳の働きが活性化すると言われています。物忘れが減ることも確かです！

時々、教会報第一面に聖人や殉教者の祝日のため大きなスペースを取っているのは何故ですか、という質問を受けます。一つは、その日のミサ典礼で聖人たちに示された神の恵みを感謝し、現代の教会のために聖人の取り次ぎを願い、その精神が生かされるように祈るためです。もう一つ、私たちが洗礼の時にいただいた聖人の名前を思い出し、信仰の恵みを受けた時の初心に帰るためでもあると思います。その聖人の生き方に憧れるとともに、取り次ぎとご保護を祈りましょう。

さて、１０月２８日（日）には年間の最大の行事でもある「教会バザー」が開かれます。チャリティー・バザーのため、婦人会の方々を中心に長い間準備をして下さって感謝します。当日は多くの**友人・知人を招いて**、楽しい一日になるように切に願っています。

教会報11月号の発行は、10月28日（日）です。 編集会議は10月21日(日)です。 記事原稿は、10月14日(日)正午までに信徒会館事務室へご提出願います。　（広報部） http://www.rokko-catholic.jp	**カトリック六甲教会** 〒657-0061　神戸市灘区赤松町 3-1-21 電　話　078-851-2846 発行責任者　桜井彦孝神父 編　集　広　報　部